



このおたよりへの意見、感想などありましたら、ぜひお寄せください。
 中央図書館 Email: hachirou@cityminokamo.lg.jp
 mokeji@cityminokamo.lg.jp

No.8

学校図書館 司書だより

2010年 10月



今年「国民読書年」です。

活字離れや読書離れを防ぐと、二〇〇八年六月に国が定めました。

これに先立ち、出版文化産業振興財団が行った調査で、子どもの頃の読書体験が大人になってからの読書習慣に影響を与えていることがわかりました。全国の20〜60代が対象で、1550人が回答。

2010 国民読書年

じゃあ、読もう。

子どもたちに読書の習慣を身につけさせてやることは、私たち大人の重要な役割のひとつなのではないでしょうか。

読書は、より深く生きる力、私たち自身の未来をつくってくれます。

読書することによって得られるものは計りれません。ぜひ、本を読みましょう。市立図書館では、誰でも借りられるのです。

図書館クイズ

国民読書年の広告で使われている文句はなに？

1. ことばだいすき
2. コトバダイブしよう
3. 言葉旅行しよう

答えは裏にあります。

娘と読書

本のある暮らし

後藤 啓子

子育てには本は欠かせない。娘は、幼い頃から、身近に置かれた本をペラペラとめくっておもちゃにしていた。最初は、めくることが楽しいようであった。そのうち、めくる度に変わる絵を楽しんでいるようであった。そして、読んでもらう度にそのストーリーに惹かれ、話の展開を喜んだ。また、主人公になりきって遊ぶことも楽しんだ。

さまざまな楽しみをもたらしてくれる本。その本との出会いによる関わりの変化は、子どもの成長そのものでもあった。



ぐりとぐら

その娘の一番のお気に入りは、「ぐりとぐら」である。特に、最後のパンケーキを焼いてみんなでパーティーをするところは、大のお気に入り。「かめさんも小鳥さんも蛇さんもやってきます。」「はいどうぞ。」「うれしいな。ありがとう。」「おいしいね。」「うん、とってもおいしい。しあわせ。」などと、絵を指さしながら、ひとりしやべりも楽しんだ。この本は何回読んでも、何回開いても飽きないのである。

その後も、本は娘の楽しみの一つとなり、読書が

大好きになった。あらゆるジャンルを読み、その速読力は私とは比較にならない程である。

息子は少し様相が違った。車鑑鑑などをみるのが、本にはあまり興味関心を示さなかった。しかし、小学校の三、四年生はよく読んだ。まず、「ソロリシリ」ズに夢中になった。その後も、「ぞくぞく村シリ」ズ、「まんが化石動物記シリ」ズなど、おもしろい本や漫画本を好んで読んだ。現在も、必要な本は読むが、漫画本の方に手が向くようである。



もう一つ、本ではないけれど、娘がいつも見ていたものがある。それは、国語辞典である。中学生の時、広辞苑を買ってほしいと言うので購入した。それをいつも開いて見たり読んだりして楽しんでた。語彙力を豊かにするのに寄与したようである。

こうして我が子と本の関わりをみてみると、その時々が発達段階に本は重要な役目を果たしてくれている。楽しさ・豊かさ・潤いをもたらしてくれる。本のある暮らしは素敵だ。

後藤先生は、伊深小の校長先生です。子どもにとっての読書を大切にされています。また、市内小中学校図書館教育の推進担当をしておられます。

読書タイム

市内の学校・園・施設の
子どもと読書をのぞいてみました

加茂野小学校では、全校児童が本に親しんでくれる機会を設けようと、年一回図書委員会を中心に、図書館祭りを開催しています。

お薦めの本の紹介ポスターの作成、学級全員が目録冊の作成、図書館クイズ、学年別好きな本ランキング、目標達成者への手作りしおりのプレゼントなどの内容です。

また、昨年度は児童集会で、図書委員の脚本、出演による劇も行いました。図書館利用のマナーを向上させてもらおうと、図書館で走り回り、本を乱暴に扱う子ども達の前に本の妖精が現れ、「本を大切にしてもらいたい」と訴えたり、本の博士が登場し、本の分類についての知識を話したりしました。

こういった取り組みのため、図書館での過ごし方も改善されつつあり、また利用者も少しずつ増えています。

加茂野小学校



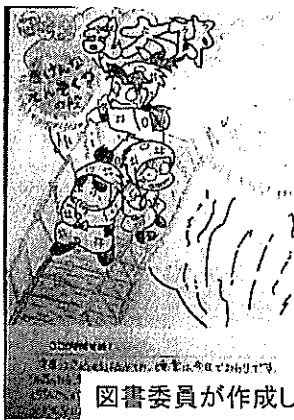
読み聞かせが大好きな子ども達目を輝かせてお話を聞いています。



本を読むのは楽しい

休み時間の図書室の様子

クイズの答:②コトバダイブしよう です!



図書委員が作成した本の紹介ポスター

今年度は、三学期に図書館祭りをを行います。全校児童がたくさんの本を借りてくれるのを今から楽しみにしています。これからも委員会の活動を中心に加茂野小学校の児童が読書好きになってくれるよう働きかけていきたいと考えています。

「こんこんさまにさしあげそうろう」

えほん
森 はな / 作
PHP 研究所 一 二二三円

さむいさむい冬。お山ではそこらじゅうが凍りついていて、食べるものが見つかりません。おなかをすかせた子ギツネに、なんとか食べものをもってきてやろうと、かあさんギツネが村へおりにいこうとしたとき、「のせぎょう」の声がかえってきました。そのお供えのおかげで冬をこえることができ



るきつねの親子。人間と自然とのやさしい関係が伝わってきます。

この本
読んでみて!

「りんごひろいきょうそう」

宮川ひろ / 作
小峰書店 一 一五五円

まなみちゃんのりんご保育園の運動会では「りんごひろいきょうそう」が行われます。まなみちゃんは、りんごが大好きなおかあさんのために、いちばん大きなりんごを拾おうと決意します。

子どものいつも一所懸命な姿に、ちょっとぴり切なくなる、母と子のやさしさに包まれたあたたかい作品です。他にも5編の短編が掲載されています。



小説

「あたらしい図鑑」

長園安浩 / 作
ゴブリン書房 一 五七五円

十三歳の夏、ぼくは病院でかつい老人に出会います。詩人であるその老人は、ぼくに、言葉にならない感情をスクラップすることを薦めます。「もやもやとした言葉にならない感情を、なんでもいいから紙に貼って、じっくりとむきあってみな。そこから言葉がうきあがってきたら、さつとメモを残すんだな。」と言われます。いろいろ考えて、まずは、言葉を知ることだと国語辞典を読み始めます。そこからぼくは、言葉の森に足を踏み入れ、さまよいはじめるのです。

「一から作ってさい」まで。」

一 二ヶ月のおいしい「自家製」レシピ
林 恵子 / 著 河出書房新社 一 六八〇円

先日、5年生のもちつき会に参加しました。稲から育てたもち米をべったんべったんとして、3種類の味付けだけいただきました。手作りのものは、手をかけ丁寧に作るのも、もちろんおいしく、大切に最後まで食べる気持ちで自然と生まれてきます。旬の素材でおいしく、楽しく、健康にもよく、食べることに感謝する気持ちを大切にしたいですね。



健康にもよく、食べることに感謝する気持ちを大切にしたいですね。